

伊丹市新任保育者のガイド

保育のあゆみ



伊丹市立幼児教育センター

はじめに ～保育を共にするみなさんへ～

「いきいきしさ」(『育ての心』(上)倉橋惣三 著)

子どもの友となるに、一番必要なものはいきいきしさである。必要というよりも、いきいきしさなくして子どもの傍らにあるは罪悪である。子どもの最も求めている生命を与えず、子どもの生命そのものを鈍らせずにおかないからである。

あなたの目、あなたの声、あなたの動作、それが常にいきいきしていなければならないのは素より、あなたの感じ方、考え方、欲しかたのすべてが、常にいきいきしているものでなければならない。どんな美しい感情、正しい思想、強い性格でも、いきいきさを欠いては、子どもの傍らに何の意義をも有しない。

(後略)

新任保育者は、新たに勤務する場としての幼稚園や保育所、こども園、そして子どもや保護者、保育を共にする仲間との出会いに期待もありながら、緊張や不安も大きいことでしょう。一人一人の保育者はキャリアも違い、保育技術の引き出しの多さも人それぞれです。

上記「いきいきしさ」に示されているように、“子どもの友”となるために一番必要なものは“いきいきしさ”だということです。保育者の目、声、動作、感じ方、考え方、欲しかたのすべてが常に“いきいきしている”、それは自ら育とうとする子どもを温かいまなざしで見守りながら、子どもを取り巻くすべての関わりにおいて、愛情豊かで肯定的な見方・考え方であるべきと考えます。時には、子どもの言動に戸惑うこともありますが、子どもは何をしようとしているのか、どんなことを考え、感じているのか、何を求めているのか、言葉にならない子どもの気持ちに真摯に向き合い、保育者が知ろう、見ようとするのがとても大切です。

保育は立派な行事をすることでもなく、子どもに何かを教え込むことでもありません。保育者の計画通りに進め、子どもをそこに当てはめることでもありません。一人一人の子どもが育とうとする姿を受けとめ、支えるもので、子ども主体であるべきです。共に温かな保育を実践していきましょう。

令和6年(2024年)2月

伊丹市教育委員会事務局 こども未来部 幼児教育保育室
伊丹市立幼児教育センター

目 次

1 伊丹市幼児教育ビジョンについて	……P. 1
2 子どもたちの1日	……P. 3
3 子どもたちの1年	……P. 5
4 保育環境の構成	……P. 11
5 よくある質問 Q&A	……P. 15
6 保育者の育成指標	……P. 21



1 伊丹市幼児教育ビジョンについて

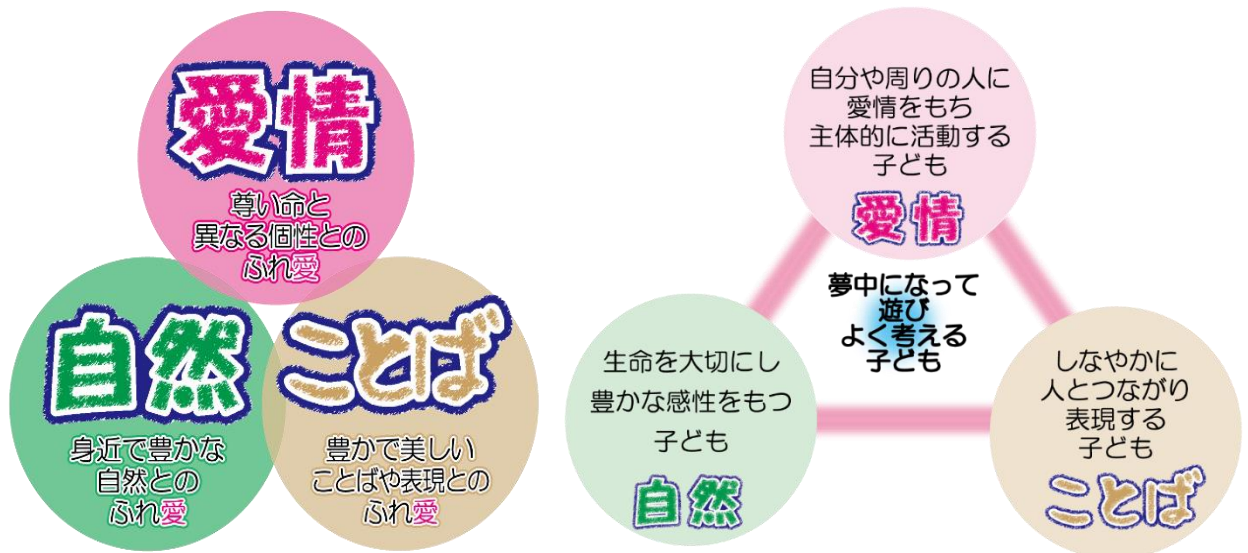
乳幼児期は、生涯にわたる人格形成の基礎が培われる大切な時期です。

乳幼児期の子どもを育むときに大切にしたいことはたくさんあり、国の指針である、「保育所保育指針」、「幼稚園教育要領」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示されています。

そのような中、なぜ「伊丹市としてのビジョン」が必要だったのでしょうか。

乳幼児期の教育・保育では、子どもの「心情・意欲・態度」を育むことを大きなねらいとし、国の指針は柔軟かつ多様性があります。だからこそ、国が示す指針を踏まえ、伊丹市の幼児教育・保育において、特に大切にすることを明確にして、質を担保していく必要があると考えました。そこで、伊丹市の地域性を大切にしながら、それらを具現化し、可視化できるものとして「伊丹市幼児教育ビジョン」を作成しました。

「伊丹市幼児教育ビジョン」は、公私立の保育所(園)・幼稚園・こども園など様々な園所の理念や実践の多様性を大切にしつつ、乳幼児期の教育・保育における基本的な方向性を示しています。また、幼児教育関係者以外にはわかりづらい、「遊びを通して学ぶ」ことの意味についても発信し、まち全体で乳幼児期の子どもの育ちと学びを支えるものでありたいと考えます。



「伊丹市幼児教育ビジョン」大切にしたい3つのキーワード(左)と育てたい子ども像(右)

育てたいこども像 ～夢中になって遊び、よく考える子ども～

乳幼児期の子どもが「夢中になって遊ぶ」ことや「よく考える」ことにはどのような意味があるのでしょうか。

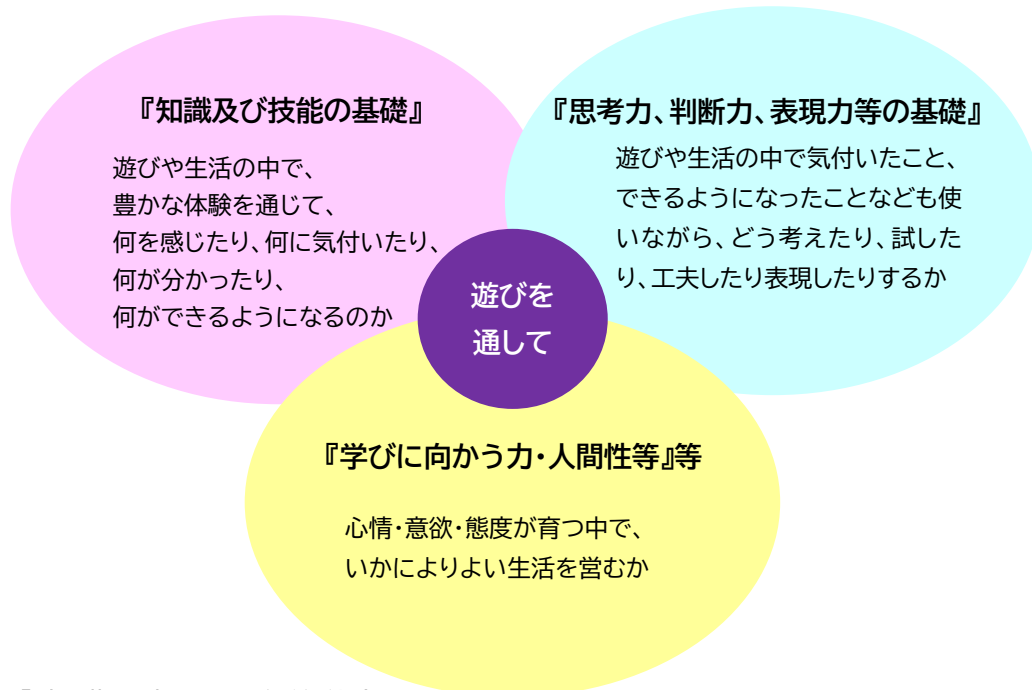
「遊び」について、乳児期の子どもは、愛着のある大人への安心感を基地とし、そこから周囲の興味深い物事へ向かって「探索」を始めていきます。手に取り、口に入れたり、叩いたり、振ったり、投げたりしながら「探索」行動を繰り返し、五感を通じてそれらの面白さを感じていきます。

幼児期の子どもは「学びの芽生え」の時期と言われ、学ぶことを意識しているわけではなく、楽しいことや好きなことに集中することを通じて様々なことを学んでいきます。楽しく、かつ楽しさや面白さに触れて遊ぶ中で、試行錯誤を繰り返し、時には友達とぶつかり、折り合いをつける経験をします。

このように、子どもの「遊び」と「よく考える」を両輪で考え、「夢中になって遊び、よく考える」を実現できるような環境をいかに構築するかが重要です。

子どもが「夢中になって遊び、よく考える」ことが実現できる環境と、子どもの主体性を尊重する保育者の適切な支援のもと、「幼児期に育みたい資質・能力」を一体的に育むことが必要です。

また、「夢中になって遊び、よく考える」ことは、小学校以上の学習においても「主体的に学びに向かう」姿勢へとつながっていきます。



「幼児期に育みたい資質・能力」

(保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領)

2 子どもたちの1日

1日の生活の中で、保育者の役割にはどのようなものがあるのでしょうか。

生活のながれと保育者の援助

時間

登園



7時

ポイント

朝一番、子どもはどのような表情をしていますか？
表情をよく見て、体調が良いか、楽しみに登園できているか、不安や緊張はないか、よく読みとりながら、まずは温かく受け入れましょう。

9時



2・3号認定子どもは、保護者の方の就労時間などに合わせて順次登園します。



1号認定子どもが一斉に登園します。



遊び

ポイント

子どもの目線の先をよく見て、どんなことを感じているのか、何をしたいと思っているのか、丁寧に読みとりましょう。
遊びの時間では、環境を構成する、一緒に遊ぶ、気持ちに共感する、友達との橋渡しをする、時にはできないところを支援するなど、保育者の役割は様々です。

11時



身支度を終えた子どもは、身近な環境に自ら関わり、自分でしたいことを選んで遊びます。

生活のながれと保育者の援助



片付け

ポイント

片付けの時間は、自由に遊んだ後の責任として、最後まで丁寧に取り組むことが大切です。
「片付けなさい。」といった強制ではなく、自分達が使った道具や素材を大切に扱う、遊んだ場を整え、明日も気持ちよく使えるようにするなどをねらい、プラスの声掛けをしましょう。



自由に遊んだ後、自分たちが使った道具や素材、遊んだ場を丁寧に片付けます。

クラスでの集まり クラスで集まり、みんなで物事を共有すること、考えを出し合うこと、共通の目的に向かって協力することなどを経験します。

12時

昼食



降園



1号認定子ども



13時

ポイント

喜んで食べる、安心して眠ることができるような関わりや環境の構成を心がけましょう。

2・3号認定子ども

午睡 (昼寝)



ポイント

子どもが帰る前にもう一度、元気に帰宅することができるか、表情や体調面などを確認します。

また、忘れ物がないか、服が汚れていないかなども併せて確認し、笑顔で挨拶を交わしましょう。



19時

2・3号認定の子どもは、午睡(昼寝)後、おやつを食べ、家庭雰囲気の中、保護者が迎えに来るまで、異年齢で遊び、順次降園します。